

特別賞

NPO法人 ぎょうだ足袋蔵ネットワーク

平成14年、足袋原材料問屋小川忠次郎商店の蔵が解体されることを聞き、行田の宝物になるものを取り壊してはいけないと、まちづくり活動を本格化。持ち主を説得するとともに行政の支援を引き出して保全のための修復に取り掛かる。この取組の過程で平成16年に「NPO法人 ぎょうだ足袋蔵ネットワーク」が設立。

設立以降、歴史建造物の保全だけでなく行田市や関係者と連携しながら、足袋蔵の活用を促すとともに、足袋蔵などを通じた行田の魅力を発信し、多くの方に楽しんでもらえるよう活動している。



①足袋蔵を保存し活かす活動

最初に保存に取り組んだ蔵「忠次郎蔵」は「忠次郎そば店」として再生し、様々なイベントやそば打ち教室が定期的で開催されるなど地域に根付いている。（現在は登録有形文化財にもなっている。）

他にも足袋工場を「足袋とくらしの博物館」として保存活用、足袋蔵等歴史的建造物の魅力や観光情報の紹介をする観光案内所「まちづくりミュージアム」をオープンさせている。

②蔵元会議について

足袋蔵の所有者が参加して、まちづくりの勉強会や今後の展望・希望・悩みの共有化等を通して、所有者のネットワーク作りを行っている。今後、蔵を利用したい人、活かしたい人にネットワークを広げ、所有者だけでは解決できない問題に向けて取り組もうと、定期的に会議を行っている。

③地域の宝物の存在をアピール

所有者の理解が得られた足袋蔵にはNPO独自の案内サインを設置し、市民に“地域の宝物”の存在をアピールしている。そのうち6件は市とNPOが協議して所有者に働きかけ、文化財保護法に基づく登録文化財に指定された。

④蔵めぐりスタンプラリーと足袋蔵昔体験セミナーについて

たくさんの方に、行田の町並みのことを知ってもらおうと、毎年5月の第3土・日曜日に、スタンプラリーを開催。市内にある14の蔵で見学や様々な催しを通じて地元の特徴を認識してもらえるイベントになっている。

また、自分達が住んでいる町を好きになってほしいという思いから、市内の小中学生を対象とした1泊2日の夏休みイベントを開催。うどん打ちや銭湯体験、町歩きを通して行田の多くの魅力を体感できるイベントになっている。